

アメリカの幼稚園教育など

斎藤敏夫

1 アメリカの初等教育

「教育はその国の社会的歴史的背景の上に成り立っている」という、極めて素朴な形で旅する態度を定めながら、ほぼ一か月の間アメリカ各地の学校や教育機関を訪ねたことになりました。

ロスアンゼルス・サンフランシスコの二つの都市では、特に「教育課程の展開」という課題をもっていた者としては、格別に取り立てるようなものを感じることではできませんでした。

たとえばカリフォルニア大学の教育学部では、カリフォルニヤプランに対して否定的であったり、デューイを尊敬しているある小学校長さんは、校内の先生方に対する「現場での教育指

導」には、たいした熱心さが示されていないようであったりしたからです。

この明るく、平板で、伸びやかな教室風景だけではアメリカ教育を説明する材料にすることはできなかったからです。

しかし、エハNSTONの小学校を訪ねて以来、次のようなこととがらによってアメリカの教育は支えられているのではないかと考えるようになりました。

その第一は、能力別指導の徹底であります。学年が能力別学級によって編成されているか、学級の中が能力別グループによって組織しているか、または両者が併用されているというような形はどこでも見られるものでした。このような形が、たいした障害もなく実施されている根底には徹底した「個人主

義」が在ると考えるのは早計でしょうか。

また能力別指導のさらにすすんだものとして、各地で盛んになってきている英才教育があります。

その第二は、ハンディキャップをもつ子どもたちの指導が特別に行なわれていることでもあります。就学可能の子どもであっても、耳の遠い子どもがありますが、この子どもたちは特別の部屋で、一人の専門教師から指導を受けている場面がありました。また読書能力の劣っている子どものリーディングルーム。適応性を欠く子どもに対するアジャストメントルームなどを数えることができます。

またこの考え方の発展が、特殊教育の施設の拡充とか、特殊教育方法の適正化などをもたらしたものと考えられます。

第三は、社会教育施設の発達とその最大限の利用ということが考えられます。図書館は町のいたるところにあり、美術館や博物館なども大都市には立派なものが設けられていて、老幼を問わず実によくこれを利用していきまを見受けました。これによって、子どもたちは自主的に主体的に問題に取り組み、それを解決する術を経験していくのではないでしょう。

最後の一項目は、家庭や近隣の社会の中で自らを大切にしながらも他人を尊重するという民主的な考え方や態度が培われ、きまりや規則に従う態度が育てられている様子が見られます。

これは、入学早々の一年生の姿や、幼稚園の子どもからもうかがえますし、公園や科学博物館、美術館などの子どもや、若い母親の態度からも汲みとることが出来ます。また幼児をもつ日本人の父親からも、その幼児を通して見た彼らの様子を知ることが出来ました。

以上は、アメリカの初等教育を支えている要素とも考えられますが、教育内容の上で特に著しくあらわれている重点のようなものを次に記述してみたいと思います。

そのひとつはアメリカ化の問題であり、これはアメリカの愛国教育にも通ずるものであります。

いろいろな人種をかかえているアメリカでは、幼稚園はおろか小学校に入学する児童の中にも、「英語」を話せない子どもがたくさんいるということです。英語教育に大きな重点をおくことは、歴史的現実から考えて必然的なことといえましょう。また国旗を中心とした教育が、毎日行なわれていることは、多くの方がすでにご承知の通りでしょう。

サンフランシスコのある幼稚園では、午後の始業時に、先生の前に列んでいる幼児たちが先生の先唱によって「私はアメリカの国旗と自由と正義のために、神のもとに団結したこの国に忠誠を誓います」という誓いのことを述べている場面に出会いました。

またロスアンゼルスLos Angelesの学校教育サービス部から出されているパンフレットには、愛国教育綱領といわれるようなものが掲載されています。この中は三部に分かれています。アメリカの理想やアメリカの発展に尽くした先人の功績を信ずることから、民主主義アメリカ人として実践すべきことがらの大綱が、具体的に簡潔に述べられています。特に注意させられることは、アメリカの歴史と伝統と信ずることを強調しながらも「きまりや規則を守る」ことや「人権を尊重する」こと、個人の独自性と他人との協同性を發達させること、また「知性的な市民性の練磨」などが唱えられていることです。

これは「愛国教育」がアメリカの独善的なものではなく、「自他を尊重する」という民主主義の根底からの発願であり、いわば「人道主義的国家主義」に通ずるものであるということではきかないのでしょうか。

したがって、この愛国教育と国際協調主義との教育とが、共に両立し得ることもうなずくことができるといえましょう。

一九五八年に制定された「国家防衛教育法」の中では、科学教育・数学教育および外国語教育などの強化が、ガイダンスやカウンセラーの養成、その他の事項と共に、アメリカの教育重点施策として取り上げられています。そして、前項にあたるものは小学校から考えられています。この中の外国語教育の強

化は、国際理解の教育に役立つものであり、国際協調主義の教育に通ずるものであることは否定できないことでしょう。

2 アメリカの幼稚園教育

アメリカの幼児教育機関は、ナースリースクール（保育学校）と幼稚園であると聞いています。また幼稚園には一年制のものとして二年制のものがあるとも聞きました。しかし、私どもが訪ねたものは、すべて小学校内に設けられているものであり、一年制のものであったことを最初に申し上げておきます。また私立の経営が多いといわれている保育学校を訪ねる機会が無かったことも付け加えておきます。

アメリカの小学校の校門をくぐります時に、その校名をみますと「ラファエット・エレメンタリースクール」というように、校名だけが記されていて、幼稚園名が表示されていません。質問紙を出しまして、修業年数を伺いますと、「幼稚園を通じて七年」というように記入してくれます。これは幼稚園と小学校の一貫性というよりも、一体化を形づくっているように思われます。

このような観点から、幼稚園を眺めてみますと、これを裏書きするような事がいろいろあらわれてきます。

先ず教育内容について考えてみましょう。

教育のあらわれ方は、わが国のそれとは大して変わっていないようです。しかし、教育課程表などをみますと、小学校とのつながりが明確に示されていることに驚かざるを得ません。これについて、一、二の例を示してみましよう。

- (1) 社会科学の手引書（サンフランシスコ）から
a シークェンス：四年以上略

幼稚園—家庭と学校。一年—家庭と学校。
二年—家庭、学校、近隣。

三年—サンフランシスコと入江附近。

- b 学習内容：示唆された問題

〔幼稚園〕

- (a) 家庭や学校における生活と健康を守るために。

イ 健康は何を必要とするか。

・きれいにして学校に来る。

・手に注意する：指を口に入れない。

・物を口に入れない。

ロ 安全にするために他人の指示に従う。

………小項目略………

ハ 安全を保つために学校で用意したものを正しく使う。

………小項目略………以下略………

- (b) 家庭や学校の健康的な環境を保持し、利用するため。

学校の中の一部である、幼稚園の部や物に対する注意の
し方、必要な物を選ぶ方法、……略

- (c) 個人と政府との関係についての理解。

互に助けあっている、きまりや他人に対する責任、……
略

- (d) 家庭や学校における役割を理解する。

- (e) 家庭や学校における宗教的な表現力を伸ばす。

- (f) 家庭や学校における美的表現力を伸ばす。

………いづれも小項目略………

これに対して一年の内容は、同様の六つの大項目の中にかくつかの小項目が示されていますが、それらの項目は幼稚園の上積み上げられ、加えられている感じを深く受けまます。

また、ワシントンの国語の「文の構造」についての一覧表をみますと、「レターライティング」をはじめ「マイニュツ」にいたるまで、一七の欄が設けられています。幼稚園の場合は「レターライティング」の中では、「ノートや手紙を口づてに書く時に守る正しい形を説明する」ということと、「必要に応じて郵便にかく住所の正しい形式を説明する」という二点が示されています。また「コッピング」のところでは、「求められた時には、名まえの正しい形式を用意する」ことが示されています。

す。

そして、この一覧表には小学校の六年に至るまでの内容が示されているわけです。

続いて先生の資格についていえることは、教師の資格を取ってから低学年、幼稚園の資格を取るというように、幼稚園の先生は小学校にまでおよぶ資格をもっていることです。

この小学校、幼稚園の一体化は「国旗に対する教育」からはじまって、細かな点にまで及んでいるようです。

次に気づいたいくつかの点を列挙してみましょう。

そのひとつは、二部制度をとりながらも、一学級の人員を少なくしていることです。一、二の例外はありましたが、どの幼稚園でもその組の人数は二十名内外のように見受けられました。小学校では三十名から三十数名のところが多く、さらに能力別編成にして、個人指導の場が多くもてるように工夫されていますが、幼稚園でも少数の子どもで、個人指導が徹底できるように配慮されていました。

その第二は部屋が落ちついて、明るくしかも清潔であることも特徴のひとつであると思われませんが、三時間という時間であり、最年少四才九か月という年齢でありながら、大きな個人用タオルを敷いて身体を横にして休養をとっている姿も印象的な

ものといえましょう。

第三は、カーペット式の敷物を用いて、そのまわりにわって楽器遊びをしているのも、畳だけを考えていることに対しての、よい示唆であったように思われます。

その他ホームメーカーキング遊びにしても、近代的な生活環境を考えると、従来のママコト遊びだけでよいかなどという疑問がわきます。

3 むすび

まとまらないことを書きつらねてきましたが、幼稚園の生活をのぞいてみても、小学校の教室を訪ねてみても、一様にいえることは教育の基本的理念が幼・小ばかりでなく、学校・家庭・社会の中に一貫していることであります。

学校・家庭・社会はそれぞれ、その場に應じた教育を独自に行ないながらも、その教育は相互に矛盾することなく補い合っているという、最も望ましい姿を瞥見し得たともいえましょう。
(東京 小川町幼稚園長)

* * * * *

* * * * *